



# 環境会計

## 2006年度の集計結果

環境コストの総額は、3,649百万円でした。内訳の投資額は788百万円で、京都工場におけるボイラー燃料転換をはじめ、数々の省エネルギー投資が主な内容です。一方、費用額は2,861百万円で、公害防止関連の費用が大部分を占めています。水質汚濁防止、大気汚染対策などの環境関連の法令遵守に向けて、各工場において継続的な取組みを進めていることを示しています。

京都工場におけるボイラー燃料転換については、環境省の自主参加型国内排出量取引制度に目標保有参加者として参加し、2006年度温室効果ガスの自主削減目標設定に係る設備補助事業の適用対象になっています。

### 総合的効果対比表

集計範囲：三菱製紙(高砂、京都、八戸、白河工場)、北上ハイテクペーパー

対象期間：2006年4月1日～2007年3月31日

単 位：百万円

分類	主な取組の内容	投資額		費用額	
		2005年度	2006年度	2005年度	2006年度
(1)事業エリア内コスト		1,961	783	2,165	2,051
	公害防止コスト	1,760	207	1,344	1,385
	大気汚染対策	1,064	122	404	682
	水質汚染対策	685	85	905	674
	悪臭騒音土壌対策他	11	0	35	29
	地球環境保全コスト	167	576	167	1
	国内植林	0	0	0	0
	海外植林	0	167	0	1
	省エネルギー活動	167	409	167	0
	資源循環コスト	34	0	655	665
	古紙等製品リサイクル処理	34	0	0	0
	工場廃棄物削減再使用処理等	0	0	655	665
(2)上下流コスト		0	0	416	420
	容器包装材料等回収・リサイクル	0	0	416	420
	グリーン調達	0	0	0	0
(3)管理活動コスト		2	1	86	94
	環境教育等	0	0	0	0
	環境管理システム構築・認証取得等	2	1	86	5
	環境保全運営費等	0	0	0	89
(4)研究開発コスト		0	0	208	208
	環境配慮商品の開発	0	0	208	208
(5)社会活動コスト		4	4	27	30
	緑化・環境美化等	4	4	26	28
	環境情報公開	0	0	1	1
(6)環境損傷コスト		0	0	68	59
	公害健康賦課金	0	0	68	59
	合計	1,967	788	2,971	2,861

環境省による「環境会計ガイドブック2002年版」に準拠しました。

## 環境保全効果

効果の内容	環境負荷指標 (2005年度対比)
(1)事業エリア内効果	
公害防止関係	
有害大気汚染物質の削減効果	
ホルムアルデヒド排出削減	0.21トン削減、52.5%減少
クロロホルム排出削減	7.5トン削減、22.3%減少
ベンゼン排出削減	排出なし
地球環境保全関係	
エネルギー消費の削減効果	
省エネルギー対策効果	2,498KL(原油換算)、81.4%増加
化石エネルギー原単位	303L/トン(原油換算)、2.3%削減
温室効果ガスの排出抑制	
CO <sub>2</sub> 排出量	1,093千トン(CO <sub>2</sub> 換算)、3.2%削減
海外植林の推進効果	
植林面積増加	85ha増加
資源循環関係	
用水節水量	3,830千トン削減
(2)上下流効果	
製品リサイクル	
古紙利用率	5.6%、0.3ポイント増加
包装容器リサイクル	
パレット回収率	61.4%、1.6ポイント減少
(3)その他効果	
社会活動	
割り箸回収量	27.9トン(絶乾換算)

## 環境保全対策に伴う経済効果

効果の内容	金額 (百万円)
原料流失防止による費用削減 (注1)	213
省エネルギーによる費用削減	478
リサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	
回収パレット再利用効果 (注2)	207
有効資源化による売却益	119
合計	1,017

(注1) 目標設定した基準と実績の差額を「経済効果金額」として計上しています。

(注2) 新規購入費用と再生費用との差額を「経済効果金額」として計上しています。